

防災だより

その33

防災専門官 野田 秀敏のた ひでし

災害に備える

昨年、九州に影響を与えた主な気象や地震・火山現象です。

	名称・場所など		名称・場所など
6月地震	豊後水道	9月台風	台風18号
6月台風	台風3号	10月火山	霧島・新燃岳
7月風水害	梅雨前線	11月台風	台風21号
7月地震	鹿児島湾	11月台風	台風22号
8月台風	台風5号		

こうしてみると、九州も災害が発生しやすい地域ということがよく分かります。

昨年は、本市から16km離れた朝倉市を中心に、東峰村や周辺の市町村で「平成29年7月九州北部豪雨（平成29年12月現在、死者38人、行方不明

3人）」が発生、自然災害の脅威を私たちは目の当たりにしました。

梅雨前線や台風による降水量は年々増加し、記録的大雨の発生も増加傾向にあり、その結果、土砂災害の発生も多発しています。

また、台風は季節ごとの平均したコースが変化し、ますます大型化するとの予想もあります。

個人または家族を含め日ごろから気象情報や避難情報などに注意を払い、いざという時の「心構え」と「対策」が必要です。

地震はどうでしょう。発生の予測が難しく、突発的に発生するのが地震の特徴であり、近年頻発しています。

一昨年の平成28年熊本地震では、被災した住民の70%が「地元」に活断層があるのを知らなかつた、17%が「存在は知っていたが地震は起きない」と思っていた」と回答した調査があります。

本市には「警固断層」と「宇美断層」の二つの活断層が存在し、特に、警固断層の地震

発生確率は「Sランク」に指定され、熊本と同規模のマグニチュード7.2（最大震度6強）の地震発生が想定されており注意が必要です。

このような自然災害による被害をできるだけ少なく（減災）するためには、「自助・共助・公助」の連携が不可欠です。

- ①自助…一人一人が自ら取り組むこと
- ②共助…地域や身近に居る人同士が一緒に取り組むこと
- ③公助…国や自治体などが取り組むこと

その中で最も基本となるのは「自助」です。まずやるべきことは「自分の身は自分で守る」ことです。

自分が助からないと近くで助けを求めている人も助けられませんが、また、災害に遭遇した場合の身の安全の守り方を家族とともに知っておくことも大切です。

そして数日間生き延びていくためには、水や食料などの備えをしておくことが必要です。

日ごろの備えを万全に！

安全対策をしておく

- ① 家自体の点検（住宅の耐震性の確認）
- ② 家具や家電などは固定（寝室や子ども部屋には家具を置かない。置く場合は、背の低い家具にし転倒防止対策をする）
- ③ 家族の間で、安否確認方法などを共有する。特に、避難場所への避難経路や外出中に被災した場合の家族の集合場所、役割分担などを家族で共有しましょう。

準備や備蓄をしておく

- ① 手の届くところに、懐中電灯、笛、寝室にはラジオ、スリッパ（靴）、携帯電話、手袋
 - ② 避難ルート・集合場所の地図（避難訓練への参加や家族で避難訓練を実施）
 - ③ 非常持出品、非常備蓄品
- 災害復旧までの数日間を自足するためのものです。最低でも3日間は自足できるだけの量を用意しましょう。

本市のまちづくり意識調査では、37.4%が「食糧を備蓄」、30.8%が「家具の転倒

防止」をしていると回答、依然として低い数値になっています。

一番大切なのは「一人ひとりが災害をイメージする（自分のこととしてとらえる）こと」。日ごろからの対策（訓練や備え）が命を守ります。

出前講座をぜひ活用ください！

市民の皆さんに「本市の災害」、特に風水害、地震災害、自主防災組織などについて「出前講座」を開催しています。災害の知識や対策について講演・説明を行いますので、ぜひ申し込みください（土・日・祝日・平日の夜でも開催します）。

問い合わせ・申し込み 防災安全課（☎内線 519）